

## コミュニケーションの楽しさと醍醐味

先日、当 HP でも時々紹介しているメル友の明石洋子さんが、「土よう親じかん～発達障害の子どもたち～」にゲスト出演した。

前もってメル友たちに、「もし、お時間があれば、番組で明石洋子さんとお会い下さい。バイタリーテイー溢れた、笑顔の素敵なお母さんです。」と案内し、また、「雑学BN」の「情報等紹介コーナー」でも紹介していた。

番組の放送あったその日の遅く、早速、次のような感想（抜粋）がメル友から届いた。

・いい番組でした。

これまで自分たちが汗をかいて取り組んできたことを応援してもらったような気がします。

学校だからできることもしっかり押さえられていて、このような障がいの理解の仕方と、周りの子供たちへの働きかけができる教師がどんどん増えることを願っています。そうなるよう努力します。

・番組、見ましたよ。

番組で取り上げられていた特別支援教育についても、とても分かりやすく参考になりました。

私は、お話伺っていて、明石さんの仲介役となる方の価値観が大切というのは、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりの係り合いにおいて、本当に大事だなと思いました。

相手の立場や心情をほんの少しでも気遣えるだけで、係り合いが広がっていくことに繋がるし、閉ざしてしまうことにも繋がるんだと改めて気づかされました。

ほんのちょこつとですが、番組を見た感想でした。

厚かましい番組紹介の発信行動であっても、「受信していたよ」という発信行動（感想を届けてくれる）を受信すると、紹介した甲斐があったと嬉しくなる。

もちろん明石さんへもメル友の感想を伝えたところ、「また感想がありましたら、メールくださいませ。」と返信があった。

コミュニケーションとは、正に、こうした発信→受信・発信→受信のサイクルが螺旋的に続いて行くことだろうなあと思う。

特に、なるべく間をおかない受信した旨の発信が重要な気がしている。

感想を受信したことを、メル友へは間をおかずにお礼方々返信した（受信した旨の発信）。

あるメル友とは、それを切っ掛けに発達障害についての意見交流の数通のメール交換が螺旋的に続いた。

お陰で更に発達障害について学ぶ機会を得た。

知らなかったことに気づき教えてもらう、これこそ、正にコミュニケーションの楽しさであり、醍醐味かもね (^\_^)